

食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術（POEM）について

1. 食道アカラシアとは

食道アカラシアとは、食道の下部が狭くなることにより、食物が入らない、胸が痛む、嘔吐する、肺炎（誤嚥性）、咳などが起きてしまう病気です。食道の神経の異常などが原因だと言われています。稀に食道がんを起こすこともあります。

2. POEM とは

POEM（経口内視鏡的筋層切開術：Per-Oral Endoscopic Myotomy）とは、胃カメラによる食道アカラシアの治療方法のことで、体の表面に傷をつけることなく、食道アカラシアを治す非常に低侵襲な治療です。

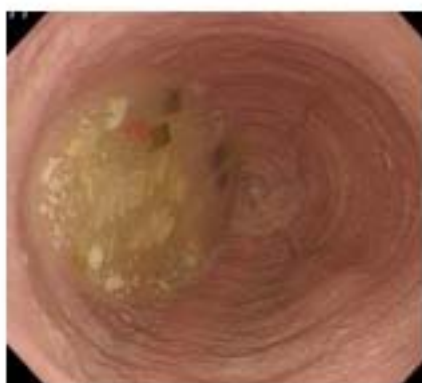
3. 食道アカラシアの診断まで

食べ物がのどを通りにくい、胸が痛む、嘔吐するといった症状により、食道アカラシアが疑われる場合は、下記の検査を行い、食道アカラシアの診断を行います。

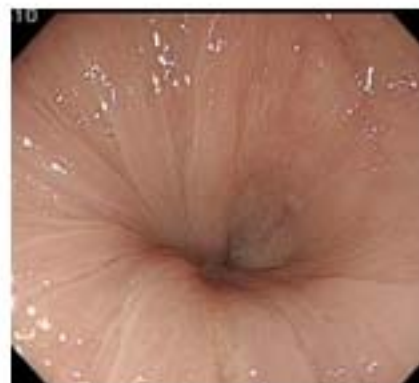
- ① 食道造影検査：バリウムによる透視検査
- ② 食道・胃内視鏡検査：食道・胃のカメラ検査
- ③ 食道内圧検査：食道内の圧力測定



<食道造影検査>
拡張した食道



<胃カメラ:食道写真>
拡張した食道と食物残渣



<胃カメラ:食道と胃のつなぎ目>
ギョッと狭まっています。

4. 食道アカラシアの治療について

食道アカラシアの治療には、主に、薬物療法、バルーン拡張術、手術療法（開腹、腹腔鏡など）、経口内視鏡治療（POEM）が挙げられます。原因を取り除く根治治療としては、手術とPOEMが選択されます。

中でもPOEMは、近年、昭和大学横浜市北部病院の井上先生らによって、内視鏡的に食道の筋層を切開し食道の経過を改善する治療方法として開発された新しい手法で、先進医療としてこれまで600人以上の治療成績があり、食事摂取困難や胸痛が改善し、非常に高い治療成績を残しています。

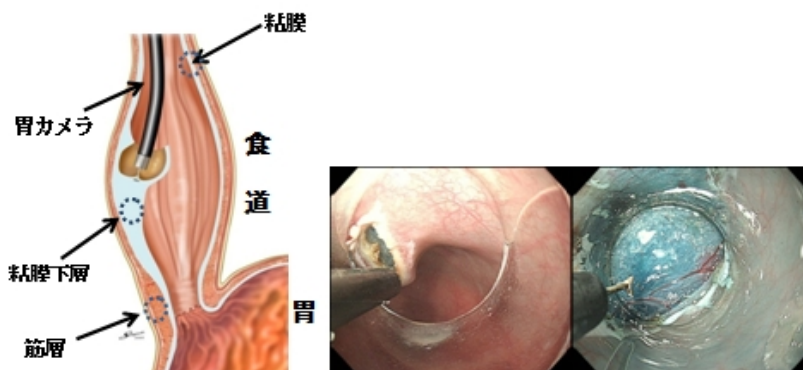
POEMの利点としては、体の表面に傷がつかないこと、食道アカラシアの原因となる筋肉を切開する長さを患者さんに合わせて変えられることがあります。

5. POEM治療の実際

入院してPOEM治療を受けていただきます（平均的な入院日数は7日間前後です）。

POEM治療当日には、手術室にて全身麻酔下で内視鏡（胃カメラ）を使い、治療します（治療時間は4時間±2時間です）。

- ① 粘膜と筋肉の間（粘膜下層）にトンネルを作ります。

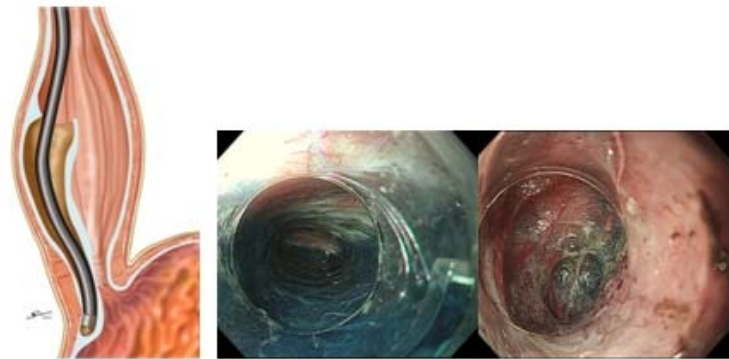


粘膜を切開し、カメラを食道の粘膜下層内に入れます。

粘膜下層トンネルを胃側まで作成します。

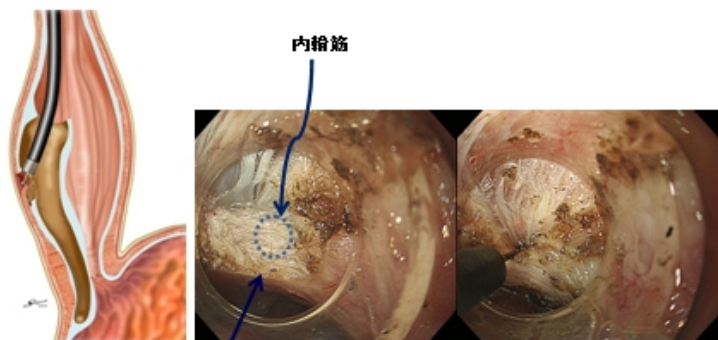
粘膜下層が分かりやすいように、青い染色液で色を付けます。

② 粘膜下層トンネルの完成



粘膜下層から、胃に少し入るまでトンネルを作ります。

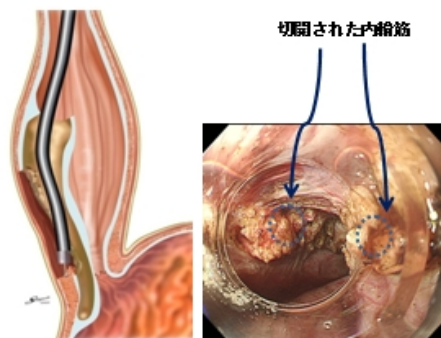
③ 食道の通過障害粘膜下層トンネルの完成



分厚くなった筋肉

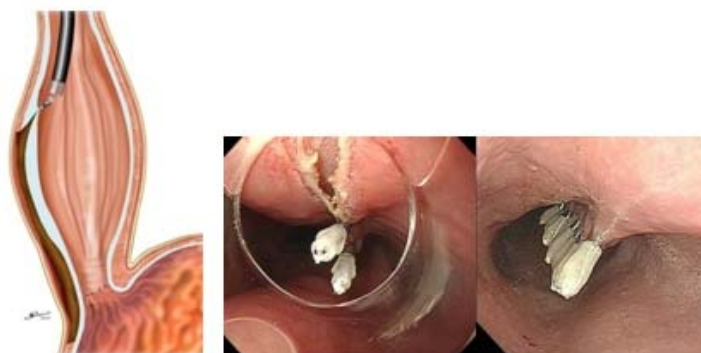
筋肉（内輪筋）を切開します。

④ 筋層切開終了



切開後の筋肉が切開され、胃と食道のつなぎ目が開きます。

⑤ クリップ閉鎖



カメラが入っていた粘膜をクリップで閉じて終了です

POEM 治療後 1 日目に内視鏡検査で、治療部分の観察をします。

治療後 2 日目に食道造影検査を行い、穿孔の有無をチェックし、問題なければ飲水を開始します。

その後食事をアップし、症状の観察を続けたあと、順調に回復すれば退院となります。

平均的な入院期間は 7 日間前後ですが、まれに合併症がおこると入院期間が延長することもあります。

6. POEM 治療の前後

<POEM 治療前>

拡張した食道

<POEM 治療後>

バリウムが胃内に良好に流れています

POEM

バリウムが食道から胃へ流れず食道が拡張しています。
食道と胃のつなぎ目はギュッとしまっています。

バリウムが食道から胃へスムーズに流れ、食道が拡張なくなっています。
胃カメラにて食道と胃のつなぎ目が開くようになった事を確認出来ます。

7. 予想される有害事象（副作用等）

あらゆる好ましくない医療上の出来事を有害事象といたします。POEM 治療を受けることで発生する可能性のある有害事象（副作用）は以下の通りです。

- ① 稀に食道粘膜下出血（輸血が必要な場合もあります）
- ② 稀に食道穿孔
- ③ 稀に再発（再手術が必要な場合もあります）
- ④ 50 歳以上の場合脳梗塞、心筋梗塞

8. 治療費用について

当院では、これまで自費診療として POEM 治療を行ってきましたが、平成 27 年 10 月から先進医療施設として認定を受けています。POEM 治療の先進医療に係る費用（約 16 万円が全額負担となります）、及び健康保険が使える範囲の保険診療費のうち、患者さんの保険医療負担割合に応じた額が、患者さんにお支払いいただく総額費用になります。